

藤岡市 災害時における支援協力協定

群馬医療福祉大学は災害時における避難者支援に関し、藤岡市と協定を締結しました。

藤岡市地域防災計画に基づき、藤岡市が開設する避難所の業務に対して群馬医療福祉大学が支援協力を行うものです。協力の内容は以下のとおりとなっています。

1. 避難所における避難者の一般的生活支援
2. 避難所に設けられた救護所における医療救護活動の補助
3. 福祉避難所における災害時要援護者の介助
4. その他、協力要請事項

藤岡市と群馬医療福祉大は4日までに、災害時の支援協力協定を締結した。同大は2年半前から市内に看護学部を開設しており、災害時には看護師の卵である学生たちが市内の各避難所で支援活動に当たる。地域安全課によると、市内では学校や公民館など45カ所が災害時の避難所に指定されている。ただ、避難所で活動する専門知識のある市職員は限られており、人材確保が課題となっていた。同大看護学部のある藤岡キャンパスの体育館

看護学生が支援活動

藤岡市と群馬医療福祉大協定

が昨年からの市の避難所となっており、大学側は災害時の支援協力の方法を市と協議していた。

看護学部には看護師や保健師、養護教諭を目指す1〜3年生約280人が在籍中。災害時には、市の支援要請に応じた学生が各避難所に出向き、市民の悩みを聞くなど生活支援をしたり、併設された救護所で医療救護活動を補助。高齢者や障害者を受け入れる福祉避難所での介助にも従事する。新井利明市長と鈴木利定学長が協定書に署名した。

新井市長は「中心市街地にある看護学部は市民の支援拠点。町づくりの中核として協力してほしい」と要請。鈴木学長は「われわれの目的は協力して地域を発展させること」と話した。市が民間と結んだ災害協定は物資の提供を中心に7例目で、人的な支援協力は初めて。廃棄物の収集運搬などを手がける環境システムズ（高崎市倉賀野町）とも災害時の救援物資供給に関する協定を締結し、トイレトロールの優先提供を受けることになった。

